

ブラジルのサッカークラブにおける成績と収入・人件費の関係

A Study of The Relationship between Performance and Revenue, Wages in Brazilian Football Clubs

1K08B108-6 杉原 晋作

指導教員 主査：平田竹男先生 副査：中村好男先生

【背景】

ブラジルはBRICsの一角にも挙げられるように経済成長著しい新興国であり、空前の活況を呈している。

2014年にはFIFAワールドカップ、2016年にはリオデジャネイロ・オリンピックを控えており、それに伴うインフラ投資も活発である。この2大スポーツイベントの開催を通して、経済が刺激されることが予想される。

近年の好況はブラジルの国内サッカークラブにも好影響を与えている。以前は欧州を中心としたサッカー選手移籍市場の中で、ブラジルは世界最大の選手輸出国であり、国内リーグの空洞化が叫ばれていた。

しかし、近年では好況でブラジルサッカークラブの経済基盤が強化されたことにより、選手に高サラリーを支払うことが可能になった。それに伴い、ロナウジーニョやデコといった、海外で活躍した選手がブラジル国内に舞い戻るようになった。

また、ブラジルのサッカークラブは全国選手権や大陸大会の他に州選手権にも参加するという特殊性を持っている。

【目的】

ブラジルのサッカーリーグは世界的に見ても独特なシステムを持ち、自国の経済成長を受けて大きな変化を遂げようとしている。ブラジルサッカーの変化は、今後世界のサッカー界に大きな影響を与える可能性がある。

本研究においては各クラブが発行するアニュアルレポートを基に、先述の先行研究と同様にブラジルのサッカークラブの収入、人件費と成績の関係を明らかにすることを目的とした。

【手法】

分析の手法として、収入と成績の関係、成績と人件費との関係共に、内田(2008)のJリーグを対象とした先行研究を参考として、各クラブの成績と収入、人件費を対数変換し、単回帰分析を行った。

【結果】

ブラジルのサッカークラブにおける収入と成績の関係を分析した結果、2007年度以降のどのシーズンにおいても相関係数は0.5以上と、有意な値を示した。このことから、ブラジルのサ

ッカークラブの成績は50%を収入によって説明できることが明らかになった。

先行研究においてはイングランドプレミアリーグやJリーグにおける成績と収入の関係を示唆していたが、ブラジルのサッカークラブにおいても同様に、収入と成績は相関関係にあるという示唆を得た。

また、ブラジルのサッカークラブにおける収入と成績の関係を分析した結果、2009年度における人件費と成績の関係に関する相関係数は0.38、2010年度は0.30と共に中程度の相関が見られた。しかし、成績と収入におけるそれと比べると低い数値にとどまった。

【考察】

成績と収入の相関係数に比べ、人件費と成績の相関係数が低い数値にとどまった理由はどこにあるのか。

筆者は、ブラジルではビッグクラブの成績が安定しないことにあると考える。

その一番の原因としては監督交代の多さが挙げられる。2010年度シーズン、ブラジル全国選手権セリエA所属のクラブでは30回以上の監督交代が行われている。

また、クラブが結果を出せば、そのクラブの選手のネームバリューは高まり、たちまち海外のクラブからオファーが舞い込む。好況に支えられ、多くのクラブが高サラリーを選手に支払うことができる状況にあるとは言え、多くのブラジルの選手が欧州を中心とした他国のクラブから引き抜かれる状況に変わりはない。2010年の1年間でブラジルから国外へ移籍した選手の数は実に283人にも及ぶ。

実力的に突出したクラブがないことも、一因として挙げられる。2001年から2010年の過去10シーズンの間に7つのクラブが優勝を経験している。この状況から、ブラジル全国選手権というサッカーリーグがいかに実力的に拮抗したコンペティティブなリーグであるかが伺える。

潤沢な資金力を持つビッグクラブであっても、継続して結果を残すことは、この国において決して容易ではないと考えられる。